

校長室だより		令和6年6月14日発行
共学共高	第	
	71	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

合唱コン~歌声高らかに響く

6月13日(木)ルネこだいらにおいて、合唱コンクールを開催した。当日の朝は、生徒たちは午前7時50分までに登校し、割り振られた練習場所で20分刻みの練習を行い、最後の調整をした。私も歌声週間から様々なクラスの練習の様子を見て回ったが、どこへ行ってもクラスの指揮者・伴奏者あるいは実行委員を中心にして、よりよい合唱へするための創意工夫がなされていた。私は、「生徒たちがより主体的に取り組める学校行事」を一つの目標として掲げているが、まさにその通りの実態があった。音楽室で練習をしている3年7組の様子を見に行った。音楽室に入ると、私に気づいた複数の生徒たちがあいさつをしてくれる。曲目は「星めぐりの歌」だ。歌い終わるとコメントを求められたので、率直にお伝えした。指揮者のMさんは、クラス全員の気持ちを高めて、高い到達点へ導いていこうとしているのがよくわかった。あんなに表情豊かに指揮をされたら、歌う側も思わず楽しみながら自然と情感を込めた演奏に仕上がっていくはずだ。本番でも演奏を開始する前に、Mさんがクラスのみんなに何かを語りかけている様子が伺えた。言葉にしていたのか、表情だけだったのか、2階席の私からはわからなかったが、これまでのクラスの絆をそこでも感じた。担任のK先生も「生徒たちが本当に自分たちで自主的にやってくれた」と話していた。

本番で私が思わず「上手い」と感じたのは、3年8組の「君が君に歌う歌」である。クラスの人数は多くないにも関わらず、各パートの言葉がしっかりと届いてくるのだ。もちろん、抑揚や強弱、ハーモニーの美しさは言うまでもない。すべての合唱が終わって、舞台袖へ移動する途中で、担任のI先生にあったので、その旨を伝えた。I先生は、「生徒たちに伝えたら、きっととても喜ぶと思います。」と返してくれた。

練習の時に最も創意工夫をしながら高い表現力を目指していたのは、実行委員長でもあり指揮者でもあるSさんがリードする3年9組の「天空歌」だ。パートを切り取って練習をして「今のは、こうだった」と全体で確認をして修整をしていく姿が印象的であった。

当日朝の多目的ホールでの練習の際に、「クラスの人数は少ないけれども、その分、心は一つにまとまりやすいはずだ。」とのメッセージをクラスの生徒たちに伝えていたのは、2年8組担任のH先生だ。無伴奏の「夢見たものは・・・」に挑戦した。声の響き、ハーモニーなど高いレベルに到達していた。

1年生は練習の時からよく声が響いていたのが、1年1組の「流浪の民」だ。歌声週間の

練習の際、パート練習をしているソプラノに T さんに「どうですか」と問われたので、「声の響きは、いいですよ。」「当日は、舞台の上から客席の最前列に声を届けるのではなく、最後列に届けるように歌うといいですよ。」と助言した。すると、T さんは H 棟 1 階の廊下の端にスマートフォンを置いて、「あそこへ声を届けるつもりで歌おう」と言って、練習をしていた。当日もよく声が響いていた。

全般的に昨年よりも合唱の質が向上していると感じた。体育祭の前から練習に着手している様子も伺えたが、集中して高みを目指して取り組んだからではないか。部活動の顧問としては、合唱練習で部員がそろわず、厳しいなという思いもしたが、生徒たちは忙しい 2 週間をしっかりと駆け抜けてくれた。こういう体験にしっかりと向き合い、のめり込んで創り上げていくことができるからこそ、人は成長するのだ。学校行事の意味はそこにある。生徒一人一人の胸に刻まれた想いを大切に、これからの学校生活も前向きに過ごして欲しいものである。

全校優勝	3 年 8 組	「君が君に歌う歌」
3 学年第 1 位	3 年 8 組	「君が君に歌う歌」
3 学年第 2 位	3 年 7 組	「星めぐりの歌」
3 学年第 3 位	3 年 9 組	「天空歌」
2 学年第 1 位	2 年 8 組	「夢みたものは・・・」
2 学年第 2 位	2 年 4 組	「その木々は緑」
2 学年第 3 位	2 年 6 組	「星めぐりの歌」
1 学年第 1 位	1 年 1 組	「流浪の民」
1 学年第 2 位	1 年 8 組	「鷗」
1 学年第 3 位	1 年 2 組	「ヒカリ」
校長賞	3 年 9 組	「天空歌」
最優秀伴奏者賞	3 年 9 組	M さん

以下の写真は練習時のもの（本番中は、私に写真を撮影する余裕がありませんでしたのでご容赦を）



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)